

広島の旅に参加して

海老澤 一 巳

大和町二丁目

八月四日、八時五六分「のぞみ」にて出発し、十二時五十分広島駅に到着した。全国的快晴で、気温も体温以上に上昇したのか、広島の間も大変に暑かった。

ホテルに荷物を預け、小休息後、広島平和記念資料館に行き、原爆投下時の広島を思い出した。原爆の熱風、爆風、放射線は瞬時に多くの肉体を破壊し、都市と地域社会全体を破壊した。

広島歩みを見て、被爆者である私達は核の恐ろしさを思い起し、被爆当時の有様を脳裏から走馬灯のように思い浮かべながら見て廻った。

世界では核廃絶を叫んでいる中で、恐ろしい核は一向に無くならない。むしろ核開発している国々さえある状況である。核被害者である私達は、この悲惨な傷跡を見ても核廃絶を叫びたい。

翌五日午前中、被爆地点の場所を再確認のため、横川駅に向かった。その前に、昭和二〇年一月二〇日に、千葉の連隊から出動命令が出て広島に到着し、楠木四丁目にある崇徳高校に駐

留し、そこから広島駅前東練兵場に訓練で通った、その道路がどうなっているか、広島ステーションホテルから辿ってみた。

東練兵場は、この辺りかと想像したが、道路も家も当時の面影はなく、地図を頼りに、京橋川に架かる神田橋が最初の橋で、牛田大橋は訓練の都度通ったと思い、まず神田橋を頼りに歩いた。

道中は広く、自動車がどんどん走る。変わったなと思いつつ、神田橋を渡った。ところが川の土手脇道路のせいで、半世紀前の面影がいくらかあった。うれしさと懐かしさで写真を撮ったりして休息した。

太田川に架かる北大路橋なら、土手通りより街を歩いて近道と思つて歩いたところ、半田大橋に架かる大道路に出た。多分こっちは北大路橋の方向と思つて歩いたら、方向違いに歩きJR線のガード下に出た。元に戻る勇氣は無く、仕方なく、三條橋を渡って横川駅に行った。

時計を見たら約一時間半も歩いたので、くたびれたが目的地

の横川駅に着いて、また驚いた。二年前に新幹線で横川駅付近を見た時、ああ高架になったなあと思って通ったが、実際に行ってみて驚くよりガツクリした。当時は平面交叉であったので、駅前も大芝方面から来る道も、駅前からの道も皆一緒の道と記憶していたら、高架になって、ぜんぜん変わっていたので、被災地は多分この辺かと思ひ写真を撮った。

なお楠町四丁目は右のあの辺かと思って、当時の面影を辿ろうとしたのが、駅前通りを大芝町の方に向かって歩いて見たが、多分この道かと思って歩けど、面影は何一つ無いので「ガツカリ」した。当時被爆が再度あるかと思ひ、安全な山に避難をするため、可部線の可部町に行った道はどうなっているかと思ひ、横川駅前通りと可部方面の道路を模索したが解らずじまいで、探訪も、これまでと思ひて引き返した。

当時の悲惨な傷跡も、近代化の波に乗って斯くも変わったかと考えてしまふけれど、思ひ出はない方が良好い。むしろこの核の恐ろしさを後世に伝えようと思ひ、横川駅に引き返した。

駅正面、駅裏側等を、今後二度と行く事が無いと考へ、パチパチと写真を撮つてから、JR横川駅ホームでも高架になったので、何一つ面影もなく、電車で広島駅に帰つてきた。

翌八月六日、平和祈念式典に参加の爲、相生橋で降りて橋際原爆ドームを見て、被爆中心地の建物の悲惨さに痛恨の思いであった。半年しか兵隊で駐屯していなかつた私でさえ、平和

記念公園は当時休みの日等で訪れた繁華街の中島町であった。ドームは資料展示場だつたと記憶している。あの場所が原爆死亡者慰霊碑になり、被爆継承の場に、平和へのあゆみに移り変わった。

半世紀前の、あの川が、あの橋がと、思ひ出を新たにしようと同時に、被爆者の心に潜む生と死、希望と不安、過去と未来の限らない往復こそ、半世紀を生き抜いた被爆者の人生の眞実があり、核廃絶に向けて不断の努力を続けて行く必要があると思つた。

八月六日十一時四分発「ひかり」で帰京した。